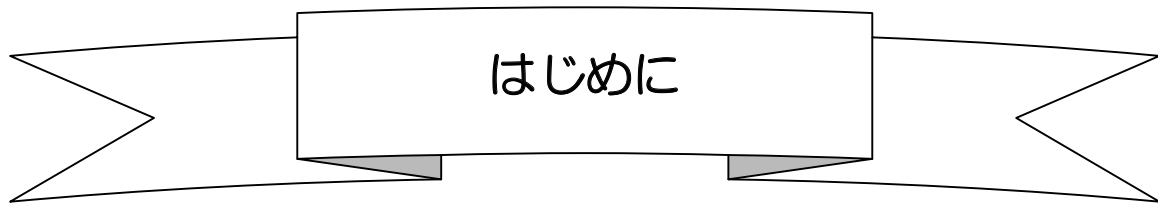


子どもたちへのメッセージ集 2009

～ 命の尊さと震災の教訓を語り継ぐ ～





へいせい ねん がつ にち はんしん あわじ だいしんさい
平成7年1月17日、阪神・淡路大震災があり、

おお かた な いえ うしな
多くの方が亡くなり、家を失いました。

だいさいがい けいけん かた いのち たいせつ
その大災害を経験された方たちから、命の大切さ

しんさい まな こ つた
や震災から学んだことを子どもたちに伝えるために

よ の
寄せられたメッセージを載せています。

よ
みなさん、ぜひ読んでみてください。

子どもたちへのメッセージ集 2009

～命の尊さと震災の教訓を語り継ぐ～

も く じ

- ☒ 子どもたちへのメッセージ (25通)
 - 震災当時の様子…………… 1ページ
 - 自然の怖さ…………… 9ページ
 - 生きる大切さ…………… 11ページ
 - 感謝の気持ち (助け合い)…………… 22ページ
 - 地震への備え…………… 27ページ

- ※ 内容によってテーマ分類しています。
- ※ 経験や想いを尊重してお伝えするため、誤字・脱字を除き、
メッセージを原文どおり掲載しています。

- ☒ 絵手紙 (大震災から14年)…………… 31ページ

- ☒ メ モ…………… 32ページ

- ☒ 子どもたちからの感想文 (一部抜粋含む7通)…………… 33ページ

- ☒ さいごに
子どもたちへのメッセージ運動の概要…………… 38ページ

- ☒ 阪神・淡路大震災関連資料…………… 39ページ
 - ※ 阪神・淡路大震災関連資料は、震災10年～神戸の記録～ (平成16年10月神戸市広報課発行)と「阪神・淡路大震災被災状況及び復興への取り組み状況」 (平成21年1月1日現在)によるものです。

震災当時の様子

子どもたちへ

「がた がた がた…」という大きなゆれで目がさめました。見ると部屋の電灯が大きくゆれています。

「何だろう。」と考えていると突然「どーん」とつきあげるように部屋の形が変わりました。「がっしゃーん」と部屋中のテレビも食器もくずれおちました。あちらこちらでサイレンの音がきこえてきます。電気も電話もつうじませんでした。

恐る恐る高台にあった家から外に出てみると、芦屋や東灘区のあちらこちらから、火や煙が上がっていました。街全体が戦争の後のようにめちゃくちゃになっていました。

お店もつぶれてしまって食べ物も買えなかったし、ガスも水道もとまってしまって、ごはんを作ったり、お風呂にも入れませんでした。歩いて仕事に行きました。途中で家がくずれて道をふさいでいました。学校は避難所になったので、教室を家がわりにしている人たちのお世話をしました。食べ物や水を配ったり、学校に泊まって保健室のベッドで寝たりしました。

今、神戸の街はとてもきれいになりましたが、街がよみがえるまで、何年もかかりました。

あの時経験した「街や人のために何かできることをしよう」という気持ちは変わりません。皆にも受けついでいきたいです。

H20年11月26日

高橋 真琴

震災当時の様子

子どもたちへ

しんさいとうじつ わたし でんしゃ なか
震災当日、私は電車の中でした。職場の仲間達と待ち合わせで、6時に阪急
でんてつ にしのみやきたぐちえき とちゆう
電鉄の西宮北口駅にむかう途中でした。

きゆう とも しゃない ふ いま せんめい おも
急ブレーキと共に車内がブランコのように振られたことを今でも鮮明に思
だ
い出せます。

ほんとう きょうふ でんしゃ お あと げしゃ いたみせん いなの
しかし本当の恐怖は、電車から降りた後でした。下車したのは、伊丹線の「稲野
えき す ほうこう ある ことば じしん し
駅」。好きな方向へ歩いてくださいね、との言葉にやっと地震だと知ったので
にちじょう はな ふうけい よしん かい よる ねむ
す。日常とかけ離れた風景でした。余震は100回をこえた。その夜は眠れませ
んでした。そしてテレビのニュースで私は乗っていた電車に助けられたことを
し
知りました。

な ぜ いたみえき ほうかい えき かた すうめい な
何故なら、伊丹駅は崩壊し、駅にいた方は数名亡くなられていたのです。

い かんしゃ げんざい わたし
「生かされた」ことに感謝して、現在の私 があります。

おっと であ こ ふたり はは わたし まいとし おっと こ かた
夫と出会い、子どもが2人いる母になった私は、毎年、夫や子どもに語る
のです。

そらいろ うで とお ころ お しんさい はなし
空色のコートに腕を通す頃に起こった震災の話を一。

2008年12月10日

空色のコート

震災当時の様子

子どもたちへ

「戦争を知らない私から、震災を知らない子どもたちへ」

私は現在32才、3人の子どものもつ母です。私の子どもたちも震災を知りません。そして私も、私の母も昔おこった日本の戦争を知りません。おばあちゃんから私の母へ、母から私へと当時の話が伝えられ、今にきています。私が体験した震災は戦争とは全くちがいます。戦争は平和を求め守り続ければ止められる。しかし自然災害は、「誰にも止められない……。」

1月17日、震災の当日、私は午前2時過ぎに帰宅しました。少しテレビを見て午前4時に布団にもぐり込みました。いつもと変わらない夜…。いつも通りの朝が来てあたり前のはず…だった。外は寒い冬…。



ドクン ドクン ドクン ドクン 心臓が鳴る。私は手探りでベランダの戸をあけた。

「お母さん…前の家が…ないわ」それがどういう事なのか理解できず見慣れた風景の記憶をたどる…。

確かに私の住んでいる向かいには、文化住宅と呼ばれる家があった。友人も住んでいた。なにに見えるのは、そのむこう側、一体何故?!そこだけじゃない。日が昇るにつれ、いつもの町はボロボロになって姿をあらわした。建物だけじゃない、多くの人や生きものもすべてが深く深く傷ついた…そして沢山のものを失った…戻って来ない命も…。

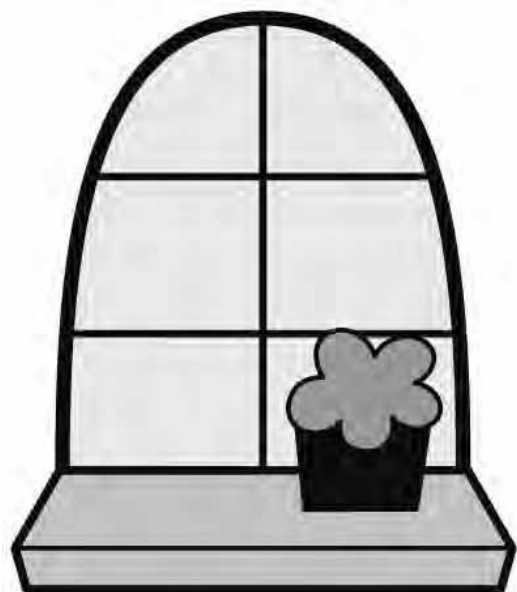
～あれから14年、神戸の町は少しずつ生まれ変わりました。～

そして私も又、あたり前の生活を過ごしています。温かい家庭ももちました。

でもみなさん、覚えておいて下さい。自然災害は誰にも止められない事を…
そして考えてみて下さい。いつ何が起こるかわからない日々の中で「あたり前
の生活に大切な忘れものはないですか？」

平成21年 1月20日

湯浅 麻衣子



震災当時の様子

子どもたちへ

そのとき、そう遠くないひめじの町で、おばちゃんは地震を感じたよ。大きなトラックが耳もとで通りすぎたような爆音とベッドから放り出されるような衝撃。まさか、そんな大きな地震を体験するなんて、そのときの、その瞬間まで思いも寄らなかった。

父と弟は、ニュースで神戸の惨状を知るや否や、仕事で使うトラックにビニールシートとジャッキ、シャベル、リヤカー、簡単な大工道具、あたたかい服などを大急ぎでつみこみ、東灘区本山周辺のおばの所へ急いだよ。築50年近い2階建てのアパートはこっぴみじんに崩れ、体が弱く人工透せきをしていたおじさんが生き埋めになっていたんだ。

父と弟は、おじさんを自衛隊の人と協力して助け出し、泣きながら「大事なものを出してほしい。」というおばさんの言葉を聞いて、ぐしゃぐしゃにつぶれた建物の中へ入り、アルバムや仏さん、思い出の宝石なんかを探したんだ。その時の神戸では、とてもおじさんが人工透せきを受けられる状況ではなく、父と弟は、トラックでおじさんをひめじまで運び、それから神戸が落ちつくまで、長い間一緒に暮らしたよ。

おばちゃんは、思うよ。大変な時は誰かが助けてくれる。だから自分も困っている人を助けようって。あの時の神戸は、本当にめちゃくちゃになってしまった。けど、たくさんの人の温かい気持ちや一生懸命な気持ちが素晴らしい復興を支えたんだよ。

平成21年1月8日

奥藤 美預子

震災当時の様子

子どもたちへ

みな
皆さんこんにちは。

わたし せいしょうねんいくせいきょうぎかい きのした もう ねが
私は青少年育成協議会の木下と申します。どうかよろしくお願ひします。

せいしょうねんいくせいきょうぎかい せいしょうきょう えげやましようがっこう たち げんきいっぱい
青少年育成協議会、青少協は、会下山小学校のこども達が元気一杯たくま
しく成長するようにいつも応援しています。

あした がつ にちはんしんだいしんさい ねん おお
明日は、1月17日阪神大震災からまるまる14年たつことになります。この大き
な地震で6,000人をこえる方々が亡くなられ、会下山小学校でも6人の児童が
いのち お ざんねん きょう ねん どうじ ようす
命を落とすという残念なこととなりました。今日は、14年まえの当時の様子
をお話しようとして参りました。会下山小学校の皆さんは、この世にでて
きていなかったと思います。これから皆さんは、せつかく生まれた尊い命を
たいせつ じかん むだ ところ からだ せいちょう ねが
大切にそして時間を無駄にせず、心も体も成長してくれることを願っています。
す。

へいせい ねん がつ にちごぜん じ ぶん あくま
平成7年の1月17日午前5時46分、ものすごい悪魔のいたずらのような
おおじしん お わたし かみさわ ちょうめ ゆうびんきょく がい かぞく ね
大地震が起こりました。私は、上沢2丁目の郵便局のビル3階で家族と寝て
いましたが、コンクリートの外壁がやぶれて外に放り出されるような衝撃を受
けました。とっさに冬ぶとんで家族をおおってゆれがおさまるのをまちました。
しばらくして窓から外を見ると上沢3丁目の西北あたりから白い煙が上がる
のを見ました。これは、えらいことになるぞとその時、身震いしたのを覚えて
います。たんすや、食器棚も倒れ、足の踏み場もありませんでした。

せいかつ でき でんき でんわ すいどう
ライフラインといって、生活にかかすことの出来ない電気、電話、ガス、水道
すべてとまってしまいました。まわりは、町全体が火事で、3日間ほどは火ど
このようになっていました。すごいことに大開通りの道路が陥没して地面から
した ちか さんようでんしゃ はし くらかん まるみ
下の地下の山陽電車が走っているところの空間が丸見えになっていました。

えげやましようがっこう ひがしどなり きそこうじちゅう
会下山小学校の東隣にマンションがありますが、基礎工事のためポンプ
ちかすい あ まいあさて おぐるま おい
で地下水をくみ上げていたので、そこへ毎朝手押し車を押して行き、トイレの
みず なが みず
水を流すためにポリタンクで水をくみにいきました。

わたしじしん ねんまえ とうぜん いま わか たいりょく いま
私自身14年前は、当然のことですが、今よりも若かった。体力もあったし今
おな とき きあい はい あつ さむ
同じことは、なかなかできないけれども、その時は気合も入っていたし、暑い寒
かん がつ がつ がつ す つよ しょうげき
いも感じないまま1月2月3月と過ぎていきました。あまりにも、強い衝撃を
う あつ さむ かん
受けると暑いも寒いも感じないものですね。

ぜんこく こうべ きゆうえんぶつし た もの き
そして全国からがんばろう神戸と救済物資、食べる物や着るものをいただき
ました。みなとがわちゅうがっこう こうてい じえいたい ふろ い くら
湊川中学校の校庭では、自衛隊のお風呂に入れてもらい、暗くてき
よご よご ところ からだ たいへん
れいなのか汚れているのかわからなかったけれど、心も体もあったまり大変
ありがたかった。

とき がっこう ようす へいせい ねん かわいけしょうがっこう なかみちしょうがっこう とうこう
その時の学校の様子ですが、平成6年に川池小学校と中道小学校が統合し
えげやましようがっこう なかみちしょうがっこう い
て会下山小学校となりました。そしていったん中道小学校へ行き、そこで
べんきょう あいだ かわいけしょうがっこう かいたい へいせい ねん しんさい とき しんこうしゃ
勉強している間に川池小学校を解体して平成7年の震災の時は、新校舎の
きそづく さいちゅう へいせい ねん がつ しんこうしゃ
基礎作りをやっている最中でした。おそらく平成7年4月からは新校舎ができ
よてい おも よてい ふ と ねんせい
る予定だったと思いますが、予定も吹っ飛んでしまい、しばらくして1年生か
ねんせい ぶんこう えげやまこうえん かせつ べんきょう
ら3年生は、分校で会下山公園のてっぺんまでのぼって仮設で勉強してしまし
た。その時先生は、皆さんの給食をリヤカーで運んでいました。大変なご苦労
おも
があつたと思います。

じしん たてももの こわ ようす み かん たてももの きそ だいじ
地震で建物が壊れていく様子を見て感じたことは、建物も基礎が大事でうわ
けしょう なかみ だいじ おお たいぼく ちじょう
べの化粧よりも中身が大事であります。どんな大きな大木でも地上にでている
ぶぶん ちか ね ぶぶん はんぶんはんぶん やなぎ かせ
部分と地下の根っこの部分は半分半分といわれています。また柳のように風が
ふ みぎ ひだり じゅうなん ひつよう つよ つよ
吹けば右へ左へなびくというか柔軟さも必要である。強いだけではだめで、強
じゅうなんせい かんが けんちく
さ+柔軟性といえますか、しなりということも考えて建築すればよいかなと

かん 感じました。みな おな 皆さんにとっても同じように、いま きそ 今は基礎がためのだいじ 大事なとき あります。

ひとり 一人ぐらしのお年よりのひと とし 人は、たいへん 大変なので たが たす あ お互いに助け合ったり、じぶん 自分だ け勝手なことをせず みなひと 皆人のことを かんが おも 考えて思いやっ ちいきぜんたい 地域全体が うご 動いていたよ うな き 気がします。しっかりと じりつ 自立すること、そして ひと 人のことも おも 思いやること、いま 成長の時期 せいちょう 基礎を じ き き そ 固めるときです。いのち 命を たいせつ 大切に、じかん 時間を むだ 無駄にせず、いそ 急がず しかし やす やす、これから じぶんじしん 自分自身を みがいて おお おお 大きく せいちょう 成長してくれることを ころ 心 から いの 祈っています。

じしん 地震で、わたしじしんかん 私自身感じたことを はなし はなし 話をしました。いじょう 以上で しんさい 震災の話を おわりま す。



自然の怖さ

子どもたちへ

しんさい こわ し
震災の怖さを知ってる？

たし
確かに

こうてい おお ゆ こわ
校庭が大きく揺れると怖いよね

しんさい こわ し
震災の怖さを知ってる？

たし
確かに

こうしゃ おと た くず こわ
校舎が音を立って崩れていくと怖いよね

しんさい こわ し
震災の怖さを知ってる？

たし
確かに

さっきまであそ ともだち め まえ し こわ
さっきまで遊んでた友達が目の前で死んじゃうと怖いよね

ほんとう こわ
でもね本当に怖いのはね

し とお じしん お
どこか知らない遠いところで地震が起きたときに

「ここじゃなくてよかった」

おも
って思う

こころ いちばんこわ
そんな心が一番怖いんだよ

2009年 1 月30日

ごまちゃん



自然の怖さ

子どもたちへ

神戸には、地震はおきないと思っていました。

私だけではなく、神戸に住む人は、ほとんどそう思っていました。この日が来るまで…

大きな「ゆれ」が何の予告もなく来ました。激しいゆれと激しい音、地面が割れ、マンション・家・ビルはつぶれました。映画のゴジラで、街がかいじゅうにむちゃくちゃにされた感じでした。

私たちの反省は、心と事が起きた時の準備をしていなかったことです。

震災は自然の力です。誰も予告はしてくれません。いきなり場所を選ばず起きます。

どうか、準備をしておいてください。

いつ、どこで震災がおきても対処できるように。この時（震災）ばかりは、親も先生も「明日、震災ですよ。」と教えることはできません。ひとりひとりが、もし震災がおきたらどうするか考えておいてください。この事がとても大切なことなのです。

H21年 1月17日

とみた まゆ

生きる大切さ

子どもたちへ

いつもとおなじ あさがくる

—あたりまえ

^{みず}
水が出る

でん^きがつく

ガス^でが出る

—あたりまえ

かぞく、ともだちがいる

^い
生きている

—あたりまえ

でも「あたりまえ」でなくなったあの^ひ日

「あたりまえ」って ほんとうは しあわせなんだ

2009年 1月14日

山口

生きる大切さ

子どもたちへ

いま じさつ ひと ふ 今、自殺する人たちが増えて、おそらく 君たちは 変な世の中で自分たちは 生か
されている、と 感じて いる こと だろう。

ただ 14 年前に 神戸を 襲った 地震は、 生きたいと 思っていた 沢山の 人たちの
命を 一瞬にして 奪って いったんだよ。 生きていく ということは、 つらい ことも
いっぱい 体験 する と思うけど、 楽しいと 感じる ことも いっぱい あるから、 人は 生
きていく ことを 望む のではない だろうか。 だから 死んで しまえば いい なんて こと
を 簡単に 考 えて ほしい はない だよ。 私 も これからも 自分 の 命 を もっと
大切に したい と思っ ています。

東郷 康平



生きる大切さ

子どもたちへ

“命の尊さ”、命とは、はかないもの。一瞬の輝きでしかない。震災でその輝きは、光を発することなく失っていきました。たくさんの方が「生きたい」と願っていたでしょう。暗く寒い中で息たえてゆくことは、私たちが想像するよりも絶望的でくるしかったと思います。1つ1つが輝く原石です。

磨けば輝くダイヤモンドです。震災では容赦なく奪われていきました。そんな地獄のような日々にも光を与えてくれたのが、“人への思いやり”と“助け合い”でした。震災の終わった今でも、こうしてあの時の事を思い出したり、祈りを捧げているのですから、震災を体験した人は感謝の気持ちを忘れないと思います。

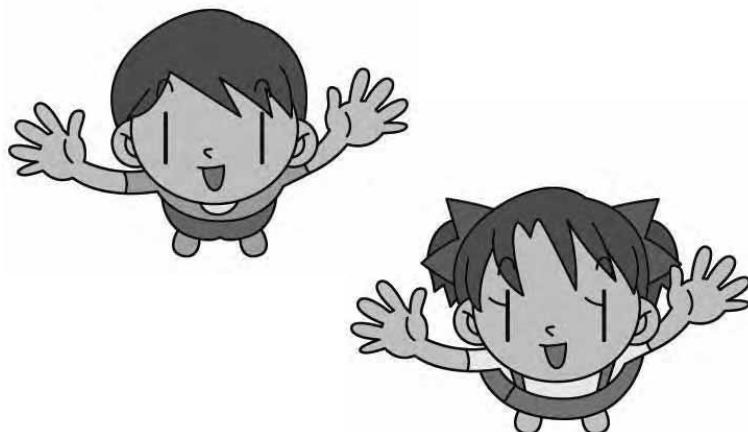
自分の命は人に支えられてあるっていう事がみんな改めて理解したでしょう。

人からの優しさ、人への優しさを知る事が出来ました。震災で亡くなった人たちの分も、毎日1秒、後悔することのないように過ごしてほしいと思っています。そして、笑顔をやさぬように…！

あなたの毎日が HAPPY DAY でありますように —END—

2008年12月17日

坂本 夢彩美



生きる大切さ

子どもたちへ

わたしは、神奈川県から大学で勉強するために神戸に来ました。阪神淡路大震災から1年後のことでした。震災から1年たっていましたが、六甲道周辺は、斜めになっている家、半分こわれている家、雨もりよけのシートを屋根にかぶせた家がまだいっぱいありました。バス道でさえガタガタ、歩道はデコボコ、キレツもいっぱいありました。

入学した大学の学生が震災で2名亡くなったことを聞きました。いっぱい勉強して、大学に入って勉強していたのに、くやしかったです。亡くなられた学生のご両親が基金をつくられたのを知って、ご両親のやりきれない想いを感じました。

「亡くなられた学生の分まで勉強しよう。生きていることを感謝して1日1日を大切に生きよう。」と思いました。先輩達からは、体育館が避難所だったこと、先輩の家もこわれて住むところがなく避難所生活だったのに、ボランティア活動をしたことなどいっぱい聞きました。大学2回生の頃、大学の廊下の天井が大きく抜け落ちました。震災の爪あとです。生活していく中で忘れかけていた震災の教訓を思い出しました。「風化させてはいけない。」と思いました。生きていることの感謝を忘れず、1日1日を大切に生きて下さい。

21年1月11日

お母さん 1年保護者

生きる大切さ

子どもたちへ

いま ねんまえ ねん がつ にちごぜん じ ぶん はんしんあわじだいしんさい お
今から 14年前、1995年 1月17日午前 5時46分、阪神淡路大震災は起こりました。
その日まで、今の皆さんのようにあたり前に、1日、1日を普通に一生懸命
生きていた人々の、たくさんの命が消えてしまいました。

わたし たいせつ ゆうじん かのじょ あか げんき
私には、とても、とても大切な友人がいました。彼女は明るく、元気で、い
つも人の事を一生懸命考えることのできる素敵なかわいい女性でした。

あさ だいず ようふく か つ ため とうきょう しゅつちよう よてい はや
その朝も、大好きな洋服の買い付けの為、東京へ出張する予定でした。早
く出発する予定だったので、6時には起きるはずだったのです。あと20分くら
い地震が遅く起こっていたら・・・と、当時の私はその事が頭から離れません
でした。そして、泣いて、泣いて、たくさん泣いて、大切な友人の死を悲しん
だあと、私が心に決めた事は・・・

にち にち ・ ・ ・ ・ ・ いっしょうけんめい たの す こと ひと よ そ ころ も
1日1日をできるだけ一生懸命、楽しく過ごす事。人に寄り添える心を持つ
こと。それは彼女が心掛けていた、というか、私が彼女に教えてもらった「普通
の大切な日常の過ごし方」です。



生きる大切さ

子どもたちへ

私の親友は、地震による土砂崩れで、家ごと潰れてしまい、亡くなりました。

人間の手だけでは、どうする事もできない程の土砂が山のようになっていました

たが、地震の翌日、やっと自衛隊の人々が重機を動かし、余震の続く中、少し

ずつ土をのけていきました。毛布にくるまれた遺体が、近くのガレージに寝か

されていきました。家族5人全員、生き埋めになってしまっていたので、遺体の

確認をしなければいけませんでした。友は当然ながら、パジャマのままでした。

私はそれ以来、夜眠るのが怖くなってしまいました。友達が最後に何を考

えただろう。地震だと気付いたかな？苦しかったかな？同じ中学・高校へ一緒に

通い、社会人になり、家もこんなに近所なのに、なぜ、友は死に、私は生きて

いるのかな。そんな事も考えました。

地震は防ぎようがありません。逃げる事もできません。でも、地震が起きた

ら、どうするかという訓練は、とても大切だと思います。神戸の子ども達は、毎年

しっかり地震の勉強をしていると思います。大人になっても忘れないでくださ

い。地震がなければ今も生き続けている命がたくさんありました。命は、こ

の世でたった1つです。自分の命を大切に、人の命を大切に、大きくなって

ください。

2008年1月30日

石野 佳寿

生きる大切さ

子どもたちへ

もうあれから長い年月がたちました。あの時私は小学校6年生でした。まだ物の大切さも命の尊さも、今いちわかっていませんでした。家族の大切さもです。震災で家はつぶれて、友達の家もつぶれて、いろんな思い出が一瞬でなくなってしまいました。すごくもろいと思いました。学校はひなん者でいっぱいだったので、青空学校みたいに、外で勉強しました。給食は、パン1つとかんづめ1つと牛乳の配給になり、あたたかい給食がどれほど、おいしかったかと思いました。電気も水もガスもとまり、家もなくなり、ただ命があるだけでした。そばにいたおじいさんおばあさんたちは戦争のときよりひどいとよくつぶやいていました。私は戦争を知りません。でも、いつもあるあたり前の幸せ、あたたかさは、あたり前ではないんだということは、身にしみてわかりました。今また、そのあたり前になれてしまい、いかに自分が幸せなのかわすれてしまいそうです。

今あなたたちの目の前にある命、家族を大切に、1日1日を大切に生きて下さい。今の幸せは、過去におじいちゃんおばあちゃん、そのまたおじいちゃんおばあちゃん達のおかげです。

08年11月25日

平川



生きる大切さ

子どもたちへ

1995年1月17日火曜日。午前5時46分。月日がどんなに流れても、神戸の街がどんなに美しく、穏やかになっても、私が生きている限り、決して忘れることができない恐ろしい事実、出来事です。

あの時、地面が割れてしまう程の地ひびきと音、今までに経験したことのなような大きな揺れによって、一瞬にして、かけがえのない命、大切な人・仲間、夢、希望、未来を奪われてしまったたくさんの人。

神戸の街は、生きてくても生きることができなかった人

助けたくても助けることができなかった人

大切な人の死を呆然と見つめる人

あふれていました。

阪神・淡路大震災は、6,434人もの尊い命を奪いました。でも、私はいつもこう思っています。

『あの地震で、たったひとつの命もなくなっちはいけなかったんだ…。』と。

そして、今度こそ、あの地震が神戸を襲っても、絶対に一人も亡くなることがない強い街にしなくてはならないのです。

そのために、教師として何ができるのか…。震災を知らない子どもたちに震災を語り、伝えていくこと、命の大切さ・生きることの素晴らしさを感じる心を育てること、何事も絶対にあきらめない強い精神力を養うこと、ご家庭の協力も得て防災につとめること…。そんなおもいを込め、毎年、子どもたちと共に震災学習に取り組んでいます。

2009年1月18日

井吹西より 愛をこめて！！

生きる大切さ

子どもたちへ

よしお君に伝えたい事

よしお君が生まれる6年前、大地震がこの街を襲いました。

その時、よしお君のおじいちゃんは、長田で働いていました。

おじいちゃんのお仕事も大きな被害を受けて、おじいちゃんはお仕事をやめなければならなくなりました。

でも、おじいちゃんは被災した人たちのために、何週間も長田で救援ボランティアを続けて、たくさんの「ありがとう」を言われていました。

仕事を失くしたおじいちゃんに、おじいちゃんのお友達から「仕事を手伝って欲しい」と頼まれました。

そして、おじいちゃんは「被災者に住宅再建の支援を！」求める活動に取り組みました。

だけど、おじいちゃんは大震災から3年後に亡くなりました。

お父さんはその仕事を引き継ぎました。

お父さんはその2年後にママと結婚しました。ママはお父さんのお仕事を支えてくれました。

21世紀最初の年、よしお君は生まれました。

大震災から12年、おじいちゃんが亡くなってから9年目に「被災者に住宅再建を支援する法律」ができました。

たくさんの人達がおじいちゃんと同じ思いをもって活動して、たくさんの人たちに思いが継がれて、おじいちゃんの一つの夢が叶いました。

おじいちゃんと、お父さんと、たくさんの人たちが取り組んだ活動は、これ

から起きる自然災害による被災者の生活再建を助けることでしょう。

たくさんの人達と協力し、粘り強く取り組めば「夢を叶え、人を助けることができること」をお父さんはよしお君に伝えたい。

09年1月10日

神戸市立長田南小学校

生徒1年2組 岡 世史雄

保護者 岡 民雄



生きる大切さ

子どもたちへ

H. 7. 1. 17 そうちょう だいしんさい 早朝の大震災

ちいき ひと 地域の人、ひと だんたい ボランティアの人、せ わ 団体にすごく世話になった。

にんげんりょく いつも人間力のある人がひと よ ひつよう 世に必要、それには

1. こころ からだ けんこう 心と体の健康

た うご ね 食べる、動く、寝るをしっかりと

2. とき ひ いざという時、日ごろのふれあい

かいわ えがお あいさつ、会話、笑顔

3. ふだん せいかつ たいせつ 普段の生活が大切

あたりまえのことをあたりまえにしてい生きる

ひとり い ちから つ さいがい む みなもと 一人ひとりが生きる力を付けることが、災害にたち向かう源。

まな あそ ち え み つ よく学びよく遊び 知恵を身に付けましょう。

H. 20 年 11 月 14 日

大崎謙介



感謝の気持ち（助け合い）

子どもたちへ

神戸に震度7の大きな地震が襲いました。テレビに映る長田の町は、火の海です。兵庫や長田では、水もガスも電気も止まりました。

実家の銭湯は、窓ガラスも割れ、電気のシステムもこわれ、隣との壁は完全にこわれました。隣の家の方は二階の下じきになり、死んでしまいました。近くの芝居の劇場も壊れ、九州から来た劇団員の方は、泊まる所がなくお風呂屋さんに寝ることになりました。近所の人たちに店にあるジュースを配りました。

みんなお腹をすかせていました。近所の人たちがよってきて自分の技術をいかし、窓に TENT を張り、電気をなおし、修理をしてくれました。そして一週間後、お風呂屋を半壊状態で再開しました。兵庫区で三軒だけでした。お客さんは長い列になって並びました。赤ちゃんやお年寄りも、先に入れてあげました。だれも文句は言いません。みんなお湯が半分しかなくても、温度が低くても、だれも文句は言いません。助け合う心がありました。

2008年11月25日

車谷 佐多子

感謝の気持ち（助け合い）

子どもたちへ

この季節になると、あの時と同じような寒さと同時に、夜明け前の暗さの中で起こった、夢なのか現実なのか区別の付かない程の、ものすごい揺れにおびえていた時間を思い出します。何秒かの出来事でしたが、たくさんの悪いことを想像できるほど長い時間に思えました。揺れがおさまって太陽が昇った頃、辺りの変わり様にまた震えました。恐ろしくて吐き気がしてたまらなかったのを覚えていてます。でも、私は幸いにも生きていました。電気がつかなくても、水が出なくても、お腹が空いていても、生きていられました。

だから今、自分に子どもができ、家族4人で暮らせています。「生きる」ということは、とても幸せなこと。「死んだ方がマシ」なんてことは、絶対に有り得ないことです。みんないつ不幸な目に遭うか分かりません。平穏な生活を崩した地震を経験して、そう強く感じました。だからこそ、生きていることに「ありがとう」と思うべきだと思いました。自分の命も、自分以外の命も、長く続くことができるためにできることを、これからも考えようと思います。地震によって亡くなられた方々の、止まってしまったたくさんの命を忘れずに、一緒に毎日に感謝して生きていこうね。

H21年1月15日

母

子どもたちへ

子どもたちよ、今、もしも、悩みごとがあるならば、
友に話そう。……話せば友がいなければ、
親や先生に話しましょう。

一人で決めに悩まずに、テレビやゲームで見よう
「いち」をまとりにしないでね

震災で亡くなった多くの人には、きっと、ずっと、永く
生きたかったはず。……そんな人たちの思いを
大切に考えれば、決して決して「命」は粗末に
できないですわ。

うれしいことも、悲しいことも共に分け合って変え
あってこそ人間です。ともに生かされて命を
大切に、夢と希望を持って元気で生きて
いきましょう。



2009年 1月 17日

お名前:

M. M.

より

この欄は公開します。とく名を希望の方はペンネームまたは空白でお願いします。 No 093

感謝の気持ち（助け合い）

子どもたちへ

（わたし こうべ す
私は神戸に住んでおります。しかくしょうがい ぜんもう そうきよくか
視覚障害（全盲）の箏曲家です。）

あの日からもう 14年！なが なが
長かったような、短かったような…

でもあのしんさい とし う
震災の年に生まれた方は中学生に。

あらた し せだい ふ かん
改めて知らない世代が増えてきたのだと感じております。

これからのこうべ にな こ
神戸を担う子どもたち！やさ ひと
優しい人になってください。まち ある
街を歩いているとき、こま ひと きがる こえ たす
困っている人に気軽に声をかけて助けてあげてください。

あのしんさい わたし かん
震災のとき、私もたくさんの方に、やさ たす
優しく助けていただきました。そして
かんしゃ ころ まな わたし やく た とくよう
感謝する心を学びました。私でもお役に立てること！特養ホーム、デイサ
ービスなどにうかがって、えんそう き
演奏を聞いていただく。どうようしょうか なつ
童謡唱歌、懐メロなど！い
っしょにうた たの
歌って楽しんでいただいております。かえ
帰るとき「ありがとう うれし
かったわ また来てね」あくしゆ みおく
握手して見送ってくださるおばあちゃまたち！ころ
心からの
よろこ
喜びをかみしめるわたし
私です。

もう来てほしくはないじしん
地震！でもどんなときも、みんなでて
手をつなぎ合って、
こえ あ たす あ
声をかけ合い助け合う。そんなすてき まち
素敵な街になりますようねが
願っております。

せい み あおぞら
生うけて 見えぬ青空 あおぎつつ

しんさい こ
震災も越え ありししあわせ

2009年1月29日

小林 紀代

子どもたちへ

きれいなまちになりました。

こんどはみんなで、あったかいまちを
つくっていきましょう。



年 月 日

お名前:

N・S

より

この欄は公開します。とく名を希望の方はペンネームまたは空白でお願いします。 No 133

地震への備え

子どもたちへ

はんしんあわじだいしんさい とき ぼく さい とき
阪神淡路大震災がおきた時、僕はまだ3歳だったので、その時のことはまっ
たくとっていいほど覚えていません。しかし、しょうがっこう どうとく じかん
小学校の道徳の時間などで
しんさい べんきょう
震災のことについて勉強しました。

しんさい とき かぞく うしな ひと はなし き しんさい とき か ほん
震災の時に家族を失った人の話を聞いたり、震災の時のことを書いた本など
よ を読んだりしました。そしてきづ はなし とき ほん なか きょうつう
気付いたことは、話の時でも、本の中でも共通し
てあることば ことば ことば とき な ひと ぶん い
言葉があったことです。それは、「震災の時に亡くなった人の分まで生き
ていってください」ということでした。このことば おも いのち
言葉はとても重みがあり、「命の
とうと かん おも
尊さ」を感じるものだと思います。

おお じけん さいがい つぎつぎ お わす みぢか お こと
大きな事件や災害が次々起きて忘れられがちですが、身近で起きた事なので
かんしん も しら はなし き こと さいがい そな おも
関心を持って調べたり話を聞く事で、災害への備えになると思います。

2009年 1月29日

地震への備え

子どもたちへ

皆さんは、地震が起きた時、火事が発生したとき、気象警報が出たときは
学校でもよく訓練があると思います。私たちの生活で当たり前前に思っている
水道、電気、ガスが止まった時を考えてみませんか。

地震、落雷、台風でもこれは起こります。

まず水です。飲み水、食事、お風呂、トイレ。

電気は？照明、冷蔵庫、電子レンジ、調理器、テレビ、冷暖房、給湯器…

ガスは？使っていないお家あると思いますが、調理、給湯器、暖房…

阪神淡路大震災の時は、全部止まりましたが、幸い電気は半日で復旧しまし

た。一番困ったのは水でした。太陽熱温水器に300リットルあったはずですが、

管がはずれているのに気がつかず、100リットルくらいしか残っていませんでした。

水は浄水場まで行き、飲料、調理を中心に使った水をためておいて、

トイレに使いました。

私のうちでは、ペットボトルの水は賞味期限を見ながら置いています。バー
ベキューコンロと炭。70歳以上の人は戦争後の不自由な記憶があるので、こん
な時は少しい知恵が浮かぶかも。

食品は結構あるものです。停電したときの冷蔵庫はどうしますか。そこで

保冷剤と発泡スチロールの箱、冷凍食品をぎっしり詰めればかなりもちます。

レトルト食品、ラーメン、お菓子、ジュースも上手に利用。（内緒の話、私

の家族は大人ばかりだったので水代わりにビールを一寸ずつ飲みました。）

家族で買い物に行かないで何日か食事のメニューを立ててみましょう。そして

うまいくか実験してみませんか。

わたし　とうじつさんのみやくもいどおり
私は当日三宮雲井通のマンションの12階で被災しました。たまたま前日か
ら泊まっていた。本宅は、明石の朝霧地区、明石では被害のひどい地区で
す。午前中に山麓バイパスで帰ることができましたが、とても静かな三宮駅
周辺が印象的です。帰路は長田の火災を上から見ました。

平成21年1月27日

竹の台小学校　北村　碧のおばあちゃん

子どもたちへ

私は阪神・淡路大震災が起きた時は小学校1年生でした。小学1年生だったので詳しくは覚えていませんが、ゆれがひどく、目が覚めたことは覚えています。そして家の中のあらゆるものが床に落ちていました。学校へ数日後、行った時にクラスメイトのおじいちゃんが亡くなったことを知りました。おじいちゃんも小学1年生の孫を守るために上から覆いかぶさったそうです。そのおかげでクラスメイトの命は助けられました。おじいちゃんも亡くなったのです。それを聞いた時は本当に地震は怖いものだと思います。ニュースでも報道されているように多くの人が亡くなり、けがをしておりました。このような悲惨な出来事を忘れてはならないと私は思います。そして命を大切にしなければならぬと震災を通して痛感しました。私は今神戸の大学に通っていて、卒業論文を書くにあたって淡路の震災当時避難所になった学校にスポットをあててアプローチしています。その際、いろんな先生から話を聞くのですが耳をふさぎたくなるような話



お
さ
な
い
か
い

や涙が出てきた話もありました。それほど大変な出来事だったので、これを読んでいるみなさんにも震災の恐ろしさを知ってほしいです。そして自分の命、他人の命を大切にしてください。学校で行われている訓練も命を守る大切な訓練です。しっかり取り組んで下さいね☆

あわじま
★
し
や
べ
ら
ない

2009年 1月 日

お名前: なかお みか (淡路市津名在住) より
(旧漢名)

この欄は公開します。とく名を希望の方はペンネームまたは空白でお願いします。 No 132

大震災から十四年

子どもたちに伝え残そう。



心げよう!! 続けよう!!

阪神淡路大震災の記憶

一九九五年一月十七日午前五時四十分 強

激震あり、尊い命が三万人犠牲に……

震災が教えてくれたもの



地域の絆の大切さ!

人々のふれあいの暖かさ!



いつ起るかもしれない災害に心備えと防備!

命を強く愛せあせなれた方々の思いも



大切に生きていければ!



日頃から強い心培ってほしいと願うのも

絶対に大切な命も粗末にしないこと!



そして決して忘れてはならないことは国内外や

世界中からの支援と多数のボランティアの活動と

励ましに支えられたことです。



人は人では生きていけません。

支え合ってこそ人間です。



家族 隣人 地域の人とふれあひ

和を以て笑顔の街をつくりだす

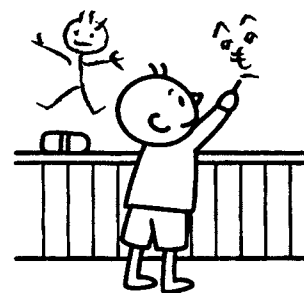
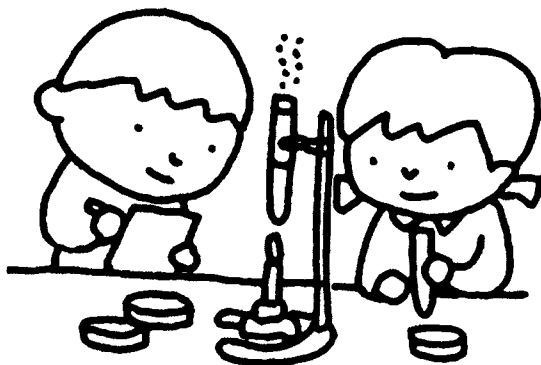
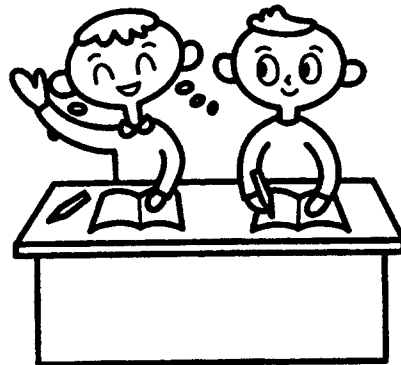
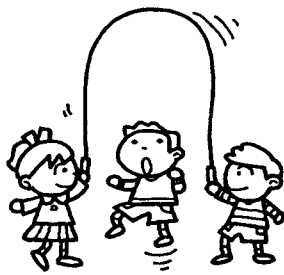


このメッセージを^よ読んであなたが^{かん}感じたことを^か書いてみてください。

A large rectangular area with a solid border, containing 20 horizontal dashed lines for writing.

こどもたちからの感想文

平成19年度中に寄せられたメッセージを協力校となっていた
学校にお届けしたところ、小・中学生から感想文をいただきました。
その中から、7通の感想文をご紹介します。



メッセージを読んで

本庄小学校 伊藤 真由佳

震災はもっと軽いゆれだと最初私は思っていました。でも、「人と未来センター」に行って当時の様子をシアターで見た時、自分の想像とまったくちがう様子だったのでびっくりしました。

最初にゆれがおそったのは、淡路島でした。淡路島の家はかわらのやねの家が多く、ゆれがおこった時、かわらのやねが重くて家がつぶれている所がたくさんありました。その後、神戸にゆれがおそって高速道路を走っている車がたおれたり、火事がおきたりして本当に町の人たちは、こわかったと思う。もし私がその時生まれていたら、こわくて家族のそばをはなれられないと思います。

おじいちゃんの兄弟は、震災の時淡路島にいました。震災がおきた時、おじいちゃんの兄弟の人は、一人でも多くの人を助けようと毎日毎日つぶれた家のなかから人を助けたそうです。私はよく自分の命のことよりも他の人の事を考えて一人でも多くの人を助けた、おじいちゃんの兄弟の人のことをすごいと思いました。

メッセージを読んで

小寺小学校 窪田 涼子

わたしは、十三年前の大きな地しんのことをあまり知らずに、生きています。今はこんなに静かで、だれもが笑顔でこの時をすごしているのに、十三年前、一月十七日、今のような笑いはなかったことを今さら感じました。

たて横に建物がゆれ、タンスがたおれ、食器がわれる。とつぜんの地しんで、だれもおどろいたと思います。家族の命を守ろうと、ぎせいになった人もいるはず。こんな悲しみがあっても、仲間を助けあう人がとても多かったと、メッセージにありました。長田では火事もあったそうです。そのおそろしさを聞いたとたん、私はゾクっとしました。私だったら地しんがきたら、自分のことを考えると。思います。

私たちが生きている今でも、地しんはおころうとしています。今のうちに、助けあうということを身につけていきたいです。



「子どもたちへ」感想

友が丘中学校

塩崎 春菜

・・・震災のときのことを全く知らないけれど、たくさんのお話を聞いたりして忘れてはならない大切なことなんだと改めて思いました。1人ひとりの協力が大事なんやと思いました。「幸せ運べるように」の歌詞にもあるように、亡くなった方々の分も1日1日を大切にしていきたいと思いました。

仲野 千紘

・・・最後にみんなで歌った地震の歌は、怖い地震があったとしても頑張って生きていこうという気になりました。

これから先も14年前の大地震の恐ろしさを伝えていけたらいいと思いました。お互い助けあっていくことが大事だと改めて思ったので、この気持ちを忘れないようにしていきたいと思います。

大野 絢子

・・・私は現在14歳で、ちょうど震災からの年月と同じ年になります。もちろん当時の記憶はなく、話を聞くことでしか当時の状況を知ることができません。震災を体験し生き残った身でありながら、そのことを記憶できなかったことがとても悲しいです。「小さかったから」「仕方がない」と大人の方々は言ってくれますが、それでも大変な状況下でただ泣いていた自分が悔しいと思います。私たちは当時何もできませんでした。それは今も変わりありません。ですが多くの方が、当時の状況を私たち子どもに伝えようとしてくださいます。何もできなかったなら、せめて多くの情報から当時の状況を知ることが大切だと思います。

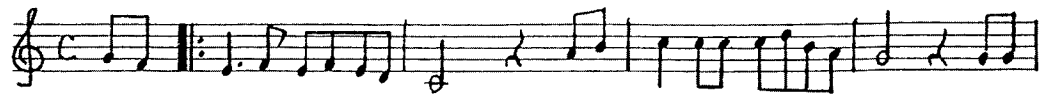
近藤 更紗

・・・私たちが記憶に残っていない「阪神淡路大震災」もちろん私たちから後に生まれた人はその恐怖なんて経験していないし、いつかはこの震災を経験した人はいなくなってしまう。だからそれを忘れないためにも大人の人たちは私たちにそれを伝え、時代が変わっていても誰か一人でも知ってほしいという思いが伝わってきました。

桑島 幸奈

・・・消防士さんの最後の話は心に深く刻まれました。もう、あんなことがないように祈ることしかできないけれど、神戸の町以外で地震が起こったら私たちを助けてくれたボランティアのみなさんのように次は私たちが助けるばんだと思います。今日は1時間をしっかりと学ぶことができました。

しあわせ運べるように 作詞・作曲 臼井 真



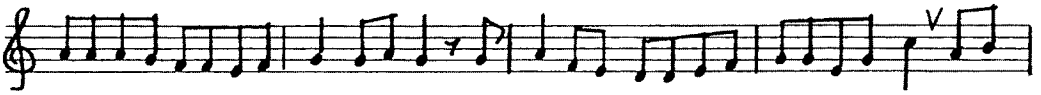
じしんにもまけない つよ いころをもって なく
つ いたこうべ を もと のすがたにもどそう ささ



な ったかたがたの ぶん もまい にちをたいせつに いきていこう きず
えあうこころと あしたへのきぼ



う をむね に ひびきわたればくたちのうた う



まれかわるこうべのまちに とどけたいわしたちのうた しあ



わせはこべるよう に

一、地震にも 負けない 強い心をもって 亡くなった方々のぶんも
毎日を 大切に 生きてゆこう
傷ついた神戸を 元の姿にもどそう
支え合う心と 明日への 希望を胸に
響きわたれ ぼくたちの歌 生まれ変わる 神戸のまちに
届けたい わたしたちの歌 しあわせ 運べるように



二、地震にも 負けない 強い絆をつくり 亡くなった方々のぶんも
毎日を 大切に 生きてゆこう
傷ついた神戸を 元の姿にもどそう
やさしい春の光のような 未来を夢み
響きわたれ ぼくたちの歌 生まれ変わる 神戸のまちに
届けたい わたしたちの歌 しあわせ運べるように
響きわたれ ぼくたちの歌 生まれ変わる 神戸のまちに
届けたい わたしたちの歌 しあわせ運べるように
届けたい わたしたちの歌 しあわせ運べるように



さいごに

このメッセージは、阪神・淡路大震災を知らない・よく覚えていない子どもたちに、命の尊さや震災の教訓を語り継ぐために寄せられたものの一部です。

このメッセージが子どもたちの心に届きますよう、みなさまのご協力をお願いいたします。

子どもたちへのメッセージ運動の概要

「子どもたちに伝えたい、阪神・淡路大震災に関連する経験や思い」をテーマとして、震災のときに生まれた子どもたちが大人になるまで、毎年、メッセージを募集し、伝えつづけていく予定です。

16年度から20年度の取組み

年度	メッセージ 募集期間	応募数(通)	メッセージ展	メッセージ集
16年度	平成16年4月 ～平成17年1月	557	平成17年3月17日 ～3月30日	2005
17年度	平成17年2月 ～平成18年1月	256	平成18年3月17日 ～3月30日	2006
18年度	平成18年2月 ～平成19年1月	222	平成19年3月17日 ～3月26日	2007
19年度	平成19年2月 ～平成20年1月	173	平成20年3月18日 ～3月27日	2008
20年度	平成20年2月 ～平成21年1月	153	平成21年3月17日 ～3月26日	2009

〈平成21年度〉

前年度同様に、メッセージを募集しています。(平成22年1月31日締切)

詳細は、神戸市のホームページをご覧ください。

ホームページ検索

子どもたちへのメッセージ運動

検索

お問い合わせ先：神戸市保健福祉局総務部人権推進課 電話 322-5234・5

《子どもたちへのメッセージ運動の活動(募集、メッセージ集編纂等)にご協力いただいた方々》
(五十音順、敬称略)

絵手紙「栄」フレンズ、クリスタル・ベル、神戸市PTA協議会、神戸市立幼稚園 PTA 連合会、神戸市立小学校 PTA 連合会、神戸市立中学校 PTA 連合会、神戸市立高等学校 PTA 連合会、神戸市立盲・養護学校 PTA 連合会、神戸学院大学地域研究センター、神戸市混声合唱団、神戸市老人クラブ連合会、神戸デザイナー学院、神戸ヤングクリエイティブクラブ、サークル 紙ふうせん、大日通周辺地区まちづくりを考える会、日本赤十字社兵庫県支部及び声の図書奉仕団

《これまで協力校となっていた学校》

有野東小学校、池田小学校、板宿小学校、会下山小学校、檉野台小学校、春日野小学校、高津橋小学校、小寺小学校、塩屋小学校、本庄小学校、湊川多聞小学校、本山第二小学校、若宮小学校、井吹台中学校、楠中学校、鷹匠中学校、鷹取中学校、友が丘中学校、長坂中学校、葺合中学校、本庄中学校、兵庫県立舞子高等学校

<参考資料>神戸市「阪神・淡路大震災 被災状況及び復興への取り組み状況」
(平成21年1月1日現在)より抜粋

神戸市の被災状況等

震災は、多くの命を奪うとともに、都市基盤や建築物に甚大な被害を与え、市民に直接的な大被害を与えた。また、復旧の長期化に伴い、産業、都市機能、生活などに様々な影響を及ぼしている。

<p>(1) 市民生活への被害</p> <p>① 多大な犠牲者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・死亡者 4,571人 (H17.12.22) ・不明 2人 ・負傷者14,678人 (H12.1.11) ・高齢者(60歳以上)が死亡者の約59%* ・家屋倒壊による死者多数(窒息・圧死が全体の約70%*) <p>※ 高齢者、家屋倒壊による死者の割合は、平成17年12月22日現在(死者4,571人)での割合(ただし、窒息・圧死の割合は直接死3,895人での割合)</p> <p>② 避難</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピーク時：箇所数599箇所 (H7.1.26) 避難人数236,899人 (H7.1.24) 避難所就寝者数222,127人(H7.1.18) <p>③ 公共施設の被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所、病院等の重要公共施設の破損、倒壊 <p>④ 学校教育・社会教育・文化施設の被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校園の約85%が被災 ・博物館、中央図書館旧館、ポートアイランドスポーツセンター等の破損、倒壊 ・酒蔵、異人館等の破損、倒壊 <p>(2) 都市機能の被害</p> <p>① 建築物、構造物の被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全壊67,421棟、半壊55,145棟 (H7.12.22現在) <p>② 火災による焼損(確定値)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全焼6,965棟、半焼80棟、部分焼270棟、ぼや71棟 ・延べ焼損面積819,108㎡ ・火災件数175件(震災とほぼ同時に54件発生) <p>③ 交通ネットワークの寸断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阪神高速道路3号神戸線、同5号湾岸線等の倒壊 ・陥没、高架構造物の落下、建築物倒壊等による道路不通 ・鉄道の寸断 ・海上都市へのアクセスの寸断 <p>④ 港湾施設等の被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンテナバース、岸壁等がほとんど全て使用不能 ・港湾幹線道路の寸断 <p>⑤ 埋立地の液状化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東部2～4工区、ポートアイランド等で液状化 <p>⑥ ライフラインの寸断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電 気 市内全域停止 (応急復旧に要した期間 7日間) ・電 話 約25%停止 (応急復旧に要した期間15日間) ・水 道 市内ほぼ全域停止 (応急復旧に要した期間91日間) ・工業用水道 市内全域停止 (応急復旧に要した期間84日間) ・ガ ス 約80%停止 (応急復旧に要した期間85日間) ・下水道 管渠・ポンプ場破損、処理場の機能低下(2/7箇所)及び機能停止(1/7箇所) (応急復旧に要した期間135日間) ・クリーンセンター 全クリーンセンターの運転停止 (応急復旧に要した期間35日間) 	<p>⑦ 公園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1/3の公園が擁壁崩壊、舗装陥没、地割れ等の被害 <p>⑧ 河川</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二級河川 117箇所破損 ・準用・普通河川 27箇所破損 <p>⑨ 治山・砂防</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急復旧を要する箇所 68箇所 <p>⑩ 社会・産業面の資本ストック全体の損害額(推計値)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約6兆9千億円 <p>(3) 神戸産業の被害</p> <p>① 基幹事業所及び製造大手企業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本社等中枢建築物の倒壊 ・生産ラインの停止 <p>② 中小企業・地場産業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケミカルシューズ 約80%が全半壊または全半焼 ・清酒造 50%以上の企業が全半壊 <p>③ 市場・商店街</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧市街地の商店街の約1/3、市場の約半数が甚大な被害 <p>④ 観光・コンベンション施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光施設、宿泊施設、コンベンション施設などで建物損壊などの被害 <p>⑤ 農漁業施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁港、漁船だまり、農地、農業用施設等が多数被害 <p>(4) その他</p> <p>上記の直接的被害にとどまらず、避難所生活に伴う精神的疲労や子ども・高齢者・障害者等への心理的影響、学校等教育機能の低下、ライフラインの復旧の遅れや交通渋滞などによる都市機能の低下、雇用の不安定化など、市民の生活に対して様々な面で、震災が影響を及ぼすこととなった。また、産業面においても、企業の市外への移転や被災による生産量の低下、港湾施設の被害に伴うコンテナ貨物の他港へのシフト、高速道路の寸断や復旧工事による交通容量の不足等により、神戸のみならず、日本経済へ深刻な影響を及ぼすこととなった。さらに、大量の災害廃棄物処理や、これに伴う環境への影響など、震災がもたらした被害は、広範囲で多方面にわたる深刻なものとなった。</p> <p>(5) 旧避難所等・仮設住宅・災害廃棄物処理について</p> <p>① 旧避難所 避難所は平成7年8月20日で終了し、待機所を平成9年3月31日まで運営。</p> <p>② 仮設住宅 ○建設戸数32,346戸(市内29,178戸、市外3,168戸) ○撤去状況 全敷地原状復旧済。</p> <p>③ 災害廃棄物処理(平成10年3月末最終)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実績 解体済61,392棟(100%)
--	---

～命の尊さと震災の教訓を語り継ぐ～

「子どもたちへのメッセージ運動」の取り組みをご紹介します

子どもたちに命の尊さと震災の教訓を語り継ぐため、平成16年4月に運動を始めました。
平成20年度までに1,361通のメッセージが、寄せられました。

2月～翌年1月
メッセージを募集



3月中旬～下旬
市民ギャラリー展示



9月～11月
子どもたちに届けます



発行：平成21年9月

発行者：神戸市・神戸市教育委員会

編集：神戸市保健福祉局総務部人権推進課 電話 078-322-5234・5

協力：神戸市教育委員会指導部人権教育課 電話 078-322-5807

〒650-8570 神戸市中央区加納町6丁目5番1号

広報印刷物登録平成21年度第122号A-1